

平成24年度 南信州地域交通問題協議会 会計決算書

収入金額	4,046,928 円
支出金額	3,085,936 円
差引残額	960,992 円

(収入)

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
負担金	3,100,000	3,100,000	0	南信州広域連合負担金 3,100,000
補助金	0	0	0	
繰越金	946,455	946,455	0	前年度繰越金
諸収入	545	473	△ 72	利息
計	4,047,000	4,046,928	△ 72	

(支出)

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
運営費	519,000	220,311	△ 298,689	
報償費	360,000	120,433	△ 239,567	委員等報償費(幹事会2回、総会3回)
旅費	130,000	55,408	△ 74,592	講師旅費、委員旅費(幹事会2回、総会3回)
消耗品・事務費	29,000	44,470	15,470	通信運搬費、振込手数料
事業費	3,520,000	2,865,625	△ 654,375	利用促進事業 (委託、広報誌、ナイトバス等)
補助金	0	0	0	
予備費	8,000	0	△ 8,000	
計	4,047,000	3,085,936	△ 961,064	

差引残高 960,992 円 は次年度に繰り越します。

平成24年度南信州地域交通問題協議会収入支出決算監査報告書

平成24年度南信州地域交通問題協議会会計の収入支出決算について監査したところ、諸帳簿、証拠書類ともに整備され、正確に処理されていることを認めます。

平成25年 6 月 7 日

監 事 飯田商工会議所

会 頭 柴 田 忠 昭 

平成25年 6 月 7 日

監 事 社会福祉法人 飯田市社会福祉協議会

会 長 福 田 富 廣 

第1号付帯資料 平成24年度事業報告について

利用促進事業

1 南信州公共交通システム認知度向上事業

○広報誌「のってみまいか、公共交通」の発行（11月号・3月号）

昨年度から公共交通の利用促進と利用転換を目的として広報誌を発行している。（飯田下伊那の53,300戸に全戸配付）

公共交通の利用を促すとともに、公共交通を利用することはエコロジーの視点で交通渋滞の緩和や低炭素社会への貢献につながり、また安全・安心な移動手段であることを、広報誌を通じて伝え、車から公共交通への利用転換のきっかけとしたい。

<内容>

11月号 公共交通で巡る南信州の紹介（松川町、阿智村昼神温泉郷）

3月号 4月からの運行等の変更について

2 情報発信事業

○公共交通ポータルサイト「南信州公共交通インフォメーション」の構築

公共交通の利用上必要な情報の発信を行い、移動手段の選択肢として認知してもらう取り組み

- ア) 市町村バス・乗合タクシー・JR飯田線等の公共交通すべての時刻及び運賃等に関する情報を一元化で管理
- イ) 「ツイッター」機能を活用し、当日や数日後の運休や工事等による迂回等のタイムリーな運行状況を発信（「ツイッター」を埋め込み表示）
- ウ) 「お知らせ窓」を設置し、予め分かっている運休や工事等による迂回の情報には事前に告知



- ・これまでの情報発信の方法では、地域住民は居住地以外の公共交通手段について、情報が入手しにくい、分かりにくい状況であったが、情報窓口を一元化したことにより、その解消につながった。
- ・これまで、災害、事故、渋滞等による大きな遅れに関するタイムリーな情報は発信する媒体がなかったが、今回設置した「ツイッター」、「お知らせ窓」の設置により可能となった。
- ・圏域外に対しても情報が入手できるようになったため、今後は観光利用やビジネス利用等の可能性も想定され、より公共交通の充実が求められる。

3 結節点整備事業（兼 利用環境改善事業） 別紙

○ J R 飯田駅前案内誘導（サイン整備）と路線バスのりば内の分かりやすい案内整備

南信州の玄関口である J R 飯田駅は、高速バス、市町村を跨ぐ路線バス（広域バス駒場線・阿島循環線、南部公共バス阿南線、喬木村民バス）、市民バス、タクシー（乗合タクシー含む）が交わるターミナル駅であり、「地域公共交通の拠点機能」を有する重要な駅である。

J R 飯田駅前全体の利用環境改善として行い、路線バス、高速バス、乗合タクシー及び J R 飯田線の相互利用をしやすくし、結節点整備としても実施する。

加えて、南部公共バス阿南線と喬木村民バスは J R 飯田駅前と結節していることが分かりにくいいため、その案内も行う。

ア) 「タクシーのりば」に高速バス、路線バス、発券所の位置図を示す看板の設置

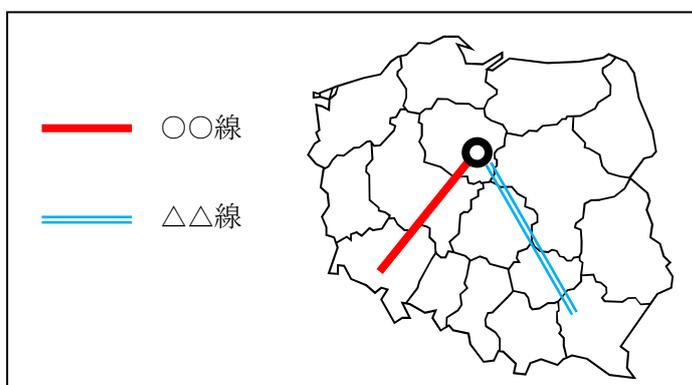
- ・それぞれを色で識別できるように高速バスを青色、路線バスを緑色、発券所を橙色に配置する。
- ・高速バスのりばと路線バスのりばの2つの建物は同色のため分かりにくいことから、側面に配置した色（上記）の看板を設置する。

イ) 路線バスのりば内の時刻表、路線図のデザイン刷新

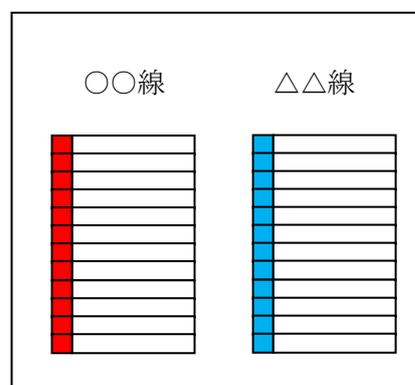
- ・路線バス毎に色を振り分け、路線図の色と時刻表の色を合わせる。（下図）
- ・ J R 飯田駅前と結節している南部公共バス阿南線と喬木村民バスを加える。
※直接には乗り入れていない他町村のバスについては昨年作成した大型路線リアルマップで対応済み。
- ・市町村バスと乗り継ぎのできる停留所については、停留所名を枠で囲う。

<該当する停留所>

- 学校前（西部コミュニティバス、阿智村バス）
- 交流センター（喬木村民バス）
- 北消防センター前（豊丘村営バス）
- 和田（広域バス平岡線）



路線図



時刻表

4 J R 飯田線の利用促進に関する取り組み

○高校通学にかかる地域公共交通懇談会（11月21日）

10～11月に東海旅客鉄道株式会社から示された平成25年4月からJ R 飯田線駅員無配置化を受け、J R 飯田線を利用して通学する高校生への影響を把握するため、管内9校の学校関係者と対象駅の所在市町村（飯田市、松川町、高森町）との意見交換会を実施した。

無配置化に関する主な意見は下記のとおり。

- ・無配置化になった場合、駅での防犯面が心配。
- ・無配置化になった場合、鼎駅での（4月からの長姫高校と飯田工業高校の統合により）下車が大幅に増加し、定期の期限チェック等J R側できちんとできるのか心配（運行も遅れそう）、不正使用等モラルの低下も懸念される。大人の目が届かなくなる。また、無配置化になれば、駅への出入りが自由になるため、生徒が被害者になるようなケースも考えられる。

○南信州乗り継ぎ便利時刻表の作成

J R 飯田線も含め、公共交通を移動手段の選択肢としてもらうために、公共交通の利用上必要な情報（ダイヤや目的地までの乗り継ぎ経路など）の発信は必要不可欠であり、現在地（居住地、最寄り駅）から目的地までをシミュレートできるツール（パンフレット）の整備を行う。

J R 飯田線またはバスでの直行や地区内を移動するバスと比較して、乗り継いで目的地に行く移動手段についての認知度は低い。

今回、乗り継ぎのパターンをわかりやすく示した時刻表を作成し、公共交通利用で圏域内の大半のエリアから中心部や他のエリアへの移動が可能であることを示すことで、これまで乗り継ぎがわからず自家用車などで移動していた住民の公共交通利用への転換を図り、公共交通全般の利用を促進する。同時に、圏域内が南信州公共交通システムとして一体的な公共交通であることをPRする。

第2号議案 平成25年度予算(案)について

平成25年度 南信州地域交通問題協議会 会計予算(案)

収入金額	3,542,000 円
支出金額	3,542,000 円
差引残額	0 円

(収入) (単位:円)

科目	H25予算	H24予算	比較増減	備考
負担金	2,580,000	3,100,000	△ 520,000	南信州広域連合負担金 2,580千円
繰越金	960,992	946,455	14,537	前年度繰越金
諸収入	1,008	545	463	
計	3,542,000	4,047,000	△ 505,000	

(支出) (単位:円)

科目	H25予算	H24予算	比較増減	備考
運営費	319,000	519,000	△ 200,000	
報償費	175,000	360,000	△ 185,000	委員等報償費等
旅費	127,000	130,000	△ 3,000	講師・委員の旅費、交通費等
消耗品・事務費	17,000	29,000	△ 12,000	通信運搬費、振込手数料
事業費	3,220,000	3,520,000	△ 300,000	1 南信州公共交通システム認知度向上事業 600千円 2 公共交通利用促進・利用転換事業 600千円 3 情報提供事業 100千円 4 関係機関との連携、改善事業 — 5 総合連携計画印刷費 400千円 6 結節点整備事業 1,120千円 7 JR飯田線の利用促進事業 400千円
予備費	3,000	8,000	△ 5,000	
計	3,542,000	4,047,000	△ 505,000	

予算の各科目に過不足が生じた場合、会長が認める場合には流用が出来るものとする。

第2号付帯資料 平成25年度事業計画について

南信州地域公共交通総合連携計画に掲げた目標を達成し、「南信州公共交通システム」を確立するため、以下の事業に取り組む。

- 1 南信州公共交通システム認知度向上事業 事業費 600 千円
圏域住民に対して「南信州公共交通システム」を広く周知し、公共交通の必要性の啓発、自家用車主体の生活様式から公共交通主体への変化を促す。
○広報誌を発行し、公共交通への関心を高めるとともに利用促進・利用転換を図る。
○イベントに合わせた公共交通利用の啓発PRを行い、公共交通への関心を高める。
- 2 公共交通利用促進・利用転換事業 事業費 600 千円
ターゲット毎に利用促進、利用転換事業を実施し、利用者拡大を図る。
○関係各機関と連携し、ノーマイカーデー等の取り組みを実施し、利用促進・利用転換を図る。
○名古屋大学と連携し、利用促進・利用転換につながる事業の検討を行う。
- 3 情報提供事業 事業費 100 千円
公共交通のポータルサイト「南信州公共交通インフォメーション」の積極的なPRを行い、公共交通の利用上必要な情報提供を行うことで、公共交通利用者の利便性向上につなげる。
○分かりやすい情報発信に心がけ、随時見直しや必要に応じて改修を行う。
○緊急時における公共交通の情報共有と輸送体制の検討を行う。
- 4 各協議会及び市町村等関係各機関と連携した、既存公共交通の改善事業 事業費 0 千円
関係各機関との横の連携を強化し、公共交通の改善を図る。
○関係各機関との情報交換等の実施により、既存公共交通の運行見直しや乗り継ぎの改善を行う。
○市町村に対して公共交通の取り組みに関する側面的支援を行う。(生活交通ネットワーク計画や自治体内の公共交通に関する検討等)
- 5 第2次南信州地域公共交通総合連携計画の策定 事業費 400 千円 **別紙**
圏域全体の公共交通計画とするため、関係各機関、市町村と連携により策定する。
○名古屋大学と連携し、アンケートに関して協力して実施する。
- 6 結節点整備事業 事業費 1,120 千円
円滑な乗り継ぎや乗り換えを効率的に確保するための検討を行う。
○JR飯田線、バス、乗合タクシーとの乗り継ぎや乗り換えの効率につながる案内表示等の検討を行う。
○結節点となる停留所の利用環境改善を行い、分かりやすい案内整備、利用しやすい環境改善を行い、利用につなげたい。
- 7 JR飯田線の利用促進事業 事業費 400 千円
地域内移動には不可欠な交通手段であり、維持確保に向け促進事業に取り組む。
○JR飯田線利用促進連絡協議会をはじめ、沿線市町村、関係各機関とともに利用促進の取り組みの検討を行う。

第2次南信州地域公共交通総合連携計画について

1 これまでの経過と位置づけ

平成19年10月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下、「活性化再生法」）が施行され、地域公共交通活性化・再生総合事業（以下、「活性化再生事業」）に取り組む場合には、地域公共交通総合連携計画（以下、「総合連携計画」）の作成と法定協議会の設置が必要となった。

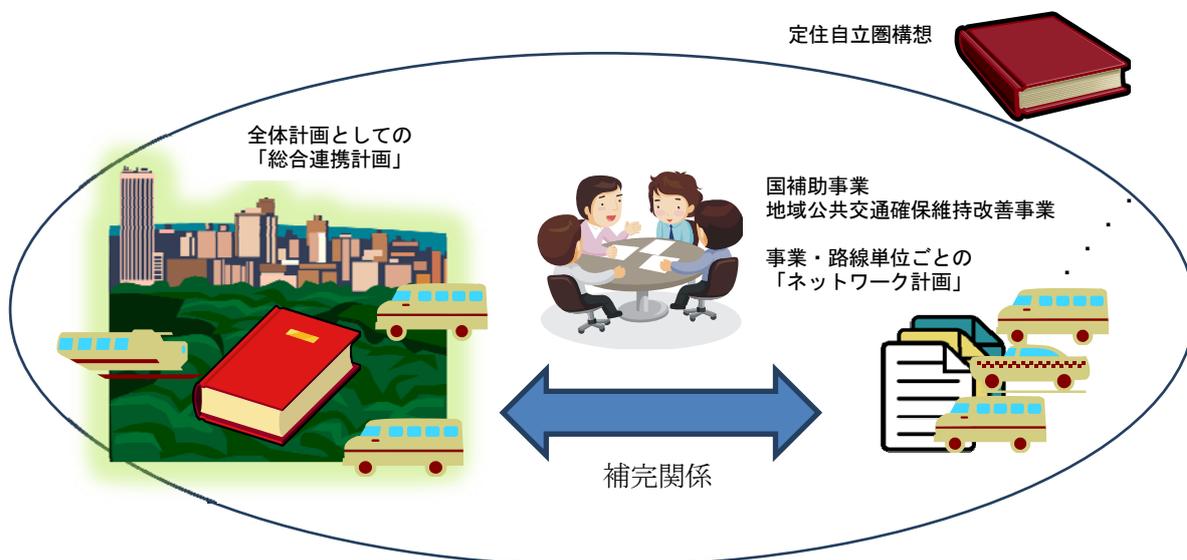


平成20年3月に南信州地域交通問題協議会（以下、「当協議会」）を設置し、平成21年3月には14市町村を包括する南信州地域公共交通総合連携計画（計画期間：平成21年4月～平成26年3月）を策定したが、5つの市町村において活性化再生事業に取り組むとして法定協議会と総合連携計画がつけられた。

平成23年4月から活性化再生事業に代わる新たな国補助事業となる地域公共交通確保維持改善事業（以下、「確保維持事業」）がスタートし、総合連携計画に代わる計画として生活交通ネットワーク計画が必要となった。

南信州地域公共交通総合連携計画は生活圏で総合的かつ一体的に推進する計画、各市町村協議会（市町村）の生活交通ネットワーク計画は個別の路線運行に関する計画として位置づけ、お互いの計画を補完し合う関係としたい。

平成26年3月をもって下伊那南部地域公共交通総合連携計画が終了することから、これを機に南信州地域公共交通総合連携計画に一本化したい。



<参考>

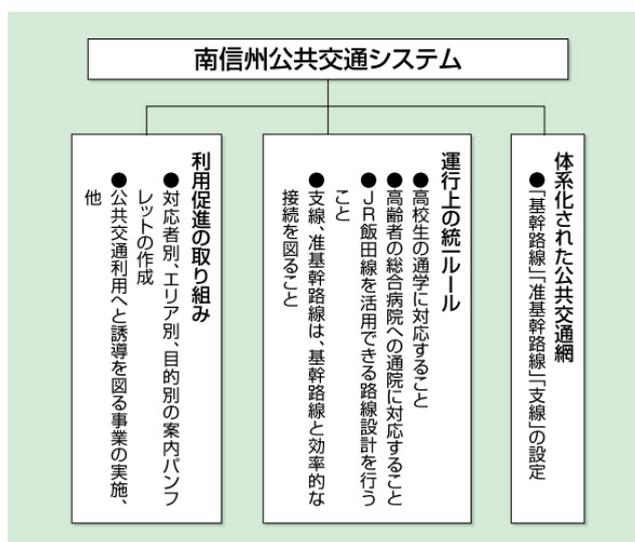
- ⇨ 下伊那南部地域公共交通対策協議会：平成21年4月～平成26年3月 【計画期間中】
- ⇨ 阿智村：平成21年4月～平成24年3月
- ⇨ 飯田市：平成20年4月～平成23年3月
- ⇨ 松川町：平成21年4月～平成23年3月
- ⇨ 豊丘村：平成21年4月～平成23年3月

【計画期間終了】

当協議会以外の総合連携計画については継続の予定は無く、平成26年4月から一本化する。

2 次期総合連携計画の基本方針等

- ・現総合連携計画にある『南信州公共交通システム※』の基本的な考え方や取り組みは、継承する。
- ・各市町村の総合連携計画を評価し、必要と思われる事項は次期総合連携計画に継承する。
- ・現総合連携計画の検証と第2次総合連携計画への要望等の反映については、高校生と高齢者（公共交通利用者または利用するであろう交通弱者）にターゲットを絞ったアンケートの実施と、市町村の協力を得て地域の会合等に出向き聞き取りを行う。



※公共交通の効率化や利便性を向上させるために、当地域を運行する公共交通を体系化し、運行上統一されたルールのもと交通事業者や各自治体が公共交通の運行を行う仕組みや事業、利用促進のためのモビリティ・マネジメントのことをいう。

☆アンケート集計及び検証は、名古屋大学との平成 25 年度委託契約の中で協力をお願いする。

第4号議案

第一次南信州地域公共交通総合連携計画評価

総合連携計画の目標と評価

【目 標】

教育機関や医療機関、商業施設が集積している圏域の中心市（飯田市）への移動や、日常生活を送る上で必要不可欠な地域公共交通の維持確保・活性化を図るため、「南信州公共交通システム」を確立し、「交通不便者に対応した公共交通の利便性向上」、「圏域内公共交通の効率的・効果的な接続」及び「利用者拡大」を進めていくこと。

項 目	評価事項	評価事項詳細	実行主体	達成状況	実行主体の評価	今後の目標
南信州公共交通システムのブランド化	南信州公共交通システムに対する認知度の向上	地域全体の公共交通体系である「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から公共交通主体への変化を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連合 ・14市町村 ・交通事業者（バス・タクシー・JR） ・南信州地域交通問題協議会 			
交通不便者に対応した公共交通の利便性向上	公共交通空白地域（面積）の減少	公共交通をより利用しやすいものとするため、当地域における既存公共交通との連携や改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連合 ・14市町村 ・南信州地域交通問題協議会 			
基幹路線に対する准基幹路線及び自治体バスの効率的・効果的な接続	基幹路線及び准基幹路線に未接続の自治体バス等の減少		<ul style="list-style-type: none"> ・広域連合 ・14市町村 ・交通事業者（バス・タクシー・JR） ・南信州地域交通問題協議会 			
利用者の拡大	基幹路線及び准基幹路線における利用者数の増加	市町村と連携し、圏域内の持続可能な公共交通の基本方針に則った具体的な検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連合 ・14市町村 ・交通事業者（バス・タクシー・JR） ・南信州地域交通問題協議会 			

※達成状況：達成・一部達成・未達成

第二次南信州地域公共交通総合連携計画スケジュール

第4号議案

					公共交通利用者の実態調査・総合連携計画作成			バス実績報告(収支含む)・集約
年 月	検討策定委員会	幹事会	内 容	詳 細	南信州広域連合	市町村担当者	名古屋大学	バス運行事業者(市町村)
5月18日(土)	第1回計画策定委員会		第1回計画策定委員会・幹事会・市町村担当者会議	今後のスケジュール、課題の抽出について、第一次連携計画の評価方法、市町村協力要請(アンケート・乗り込み調査について(聞き取り調査含む))	第一次連携計画の評価	協力要請	連携計画に対する支援	バス運行事業者(市町村)
5月下旬			第二次南信州地域公共交通総合連携計画素案作成	第一次連携計画の評価(統一フォーマット作成)	資料作成			
~6月20日まで			生活交通ネットワーク計画策定					
6月20日(木)			南信州地域交通問題協議会総会				調査設計(アンケート・聞き取り調査用紙作成)	
7月上旬	第2回計画策定委員会	利用促進検討	第2回計画策定委員会・幹事会	第一次連携計画の評価(統一フォーマット作成)、アンケート調査の内容・実施方法について	↓	↓	↓	
9月上旬~10月中旬			アンケート実施、乗り込み調査		アンケート調査、乗り込み調査	アンケート調査、乗り込み調査		
10月		利用促進検討	第3回幹事会	広報誌について	↓	↓		
10月中旬~11月中旬			アンケート集計・検証		↓	↓	集計・検証	↓
12月上旬	第3回計画策定委員会		第3回計画策定委員会	第二次南信州地域公共交通総合連携計画(素案)の提示				
12月中旬~1月中旬			パブリックコメント			協力要請		
平成26年1月中旬	第4回計画策定委員会		第4回計画策定委員会	第二次南信州地域公共交通総合連携計画(案)の提示			最終報告	
2月14日(金) 2月20日(木)			南信州広域連合会議にて報告 南信州広域連合会議にて報告					
3月中旬			南信州地域交通問題協議会総会にて承認		↓		↓	

(1)平成24年度運行実績について

H24年4月～H25年3月
(単位：人)

路線体系	路線名	デ マ ン ド	H24	H23	比 較	
			4月～3月	4月～3月	増減数	前年度比
基 幹	阿島循環線		16,750	16,397	353	102.2%
〃	駒場線		186,810	175,254	11,556	106.6%
〃	阿南線（温田線含む）		44,080	38,491	5,589	114.5%
〃	上市田線	レ	2,568	2,565	3	100.1%
准基幹	遠山郷線		12,738	13,035	▲ 297	97.7%
〃	平岡線		919	1,120	▲ 201	82.1%
〃	西部コミュニティバス		10,809	10,096	713	107.1%
〃	大鹿線		9,726	8,755	971	111.1%
支線	市民バス循環線		84,195	82,252	1,943	102.4%
〃	市民バス大休線		4,506	4,788	▲ 282	94.1%
〃	市民バス千代線		2,704	2,034	670	132.9%
〃	市民バス久堅線		1,810	1,524	286	118.8%
〃	市民バス三穂線		3,237	2,994	243	108.1%
〃	上片桐循環線		6,347	7,983	▲ 1,636	79.5%
〃	大島循環線		5,034	5,046	▲ 12	99.8%
〃	生田循環線		7,047	7,243	▲ 196	97.3%
〃	生田線		12,575	15,092	▲ 2,517	83.3%
〃	部奈線		6,317	6,167	150	102.4%
〃	泰阜線		799	812	▲ 13	98.4%
〃	阿南町民バス		10,339	12,229	▲ 1,890	84.5%

路線体系	路線名	デ マ ン ド	H24	H23	比 較	
			4月～3月	4月～3月	増減数	前年度比
支 線	伍和・智里東		7,972	8,416	▲ 444	94.7%
〃	春日・智里西		5,580	6,169	▲ 589	90.5%
〃	清内路		7,992	8,053	▲ 61	99.2%
〃	浪合		2,241	1,883	358	119.0%
〃	天龍村営バス		4,034	4,333	▲ 299	93.1%
〃	氏乗線		3,852	3,809	43	101.1%
〃	喬木大島線		3,329	3,035	294	109.7%
〃	堀越線		2,464	2,534	▲ 70	97.2%
〃	佐原線		1,970	2,225	▲ 255	88.5%
〃	壬生沢線		419	218	201	192.2%
〃	福島線		53	12	41	441.7%
〃	壬生沢福島線		762	784	▲ 22	97.2%
〃	滝川阿島北線		441	425	16	103.8%
〃	かざこし線	レ	1,995	1,754	241	113.7%
〃	三穂線	レ	3,427	2,720	707	126.0%
〃	川路線	レ	1,531	921	610	166.2%
〃	竜東線	レ	8,256	7,630	626	108.2%
〃	遠山郷線	レ	331	443	▲ 112	74.7%
〃	上村線	レ	255	249	6	102.4%
〃	下栗線	レ	298	239	59	124.7%
〃	須沢線	レ	191	275	▲ 84	69.5%
〃	上島線	レ	126	158	▲ 32	79.7%
〃	八重河内線	レ	979	497	482	197.0%
〃	平岡線	レ	2,871	2,664	207	107.8%
	合 計		490,679	473,323	17,356	103.7%

	バス（福祉バス除く）	467,851	453,208	14,643	103.2%
	乗合タクシー（通学支援タクシー除く）	22,828	20,115	2,713	113.5%

<考 察>

・基幹路線である駒場線及び阿南線の利用者が増加しており、要因として以下が考えられる。

（駒場線）通学定期券の売り上げも順調に伸びており、高校生の利用が定着してきている。朝の一部の便で利用者が多く1台では対応できないため、9～12月のみ期間限定で、曾山入口発7:30便は、伊賀良局前から2台で運行した。

また乗合タクシーに関しても回数券導入、地区別時刻表の配付等の効果も出ている。特に三穂線、竜東線においては、1便あたりの利用者が3人を上回っており、順調に推移している。

(2) 学生定期券販売実績について

H24年4月～H25年3月

(単位：枚)

路線名・系統名	H24	H23	比較	
	4月～3月	4月～3月	増減数	前年度比
駒場線	1,279	1,137	142	112.5%
駒場線飯田高校系統	492	351	141	140.2%
市立病院経由駒場線	182	138	44	131.9%
阿島循環線	16	14	2	114.3%
遠山郷線	57	82	▲ 25	69.5%
平岡線	0	1	▲ 1	0.0%
久堅線	6	9	▲ 3	66.7%
合計	2,032	1,732	300	117.3%

タクシー回数券販売実績について (1,000円/枚)

H24年4月～H25年3月

(単位：枚)

	H24	H23
	4月～3月	4月～3月
タクシー回数券販売枚数	2,023	販売無し

【学生定期券】

- 定期券の金額見直しにより順調に販売実績を伸ばしている。

【タクシー回数券】

- 今年度より販売開始した回数券は、車内でも購入可能でありまた1,000円で100円券の12枚綴り（65歳以上・学生は1,000円で100円券の13枚綴り）とお得なため順調に売り上げ実績を伸ばしている。

保存版

新 JR飯田線 伊那八幡駅 時刻表

乗り継ぎタクシー

電車で来ても、市立病院や短大、アップルロードに行きやすくなります!!
伊那八幡駅の電車の到着時間にあわせ、市立病院、短大、アップルロード間を結ぶ乗合タクシーの実証運行を開始します。

平成25年 平成26年
8月1日(木) ~ 3月31日(月) 平日のみ

運賃:100円 特別回数券 500円で1,000円分利用できます!!

※伊那八幡駅と一色アップルロード間のみ200円 ※回数券は車内で購入できます。

時刻表

※4月~7月までの運行実験では、県駅と伊那八幡駅の両駅から運行していますが、8月から伊那八幡駅に一本化されますのでご注意ください。



上り(天竜峡方面行き)	下り(元善光寺方面行き)	乗合タクシー					上り(天竜峡方面行き)	下り(元善光寺方面行き)	
		短大・市立病院・アップルロードへ	伊那八幡駅(発)	飯田女子短大(正面玄関)	市立病院	名古熊東(アピタ側)			一色アップルロード(平安堂側)
8:32	8:32	①便	8:32	8:40	8:40 8:50	—	—	—	11:17
8:58	8:59	②便	8:59	—	9:05	—	—	11:43	—
9:56	9:30	③便	9:56	—	10:05	10:10	10:15	12:34	—
—	—	④便	—	—	—	—	—	11:05	11:10
—	—	⑤便	11:25	11:30	—	11:35	11:40	11:35	11:40
—	—	⑥便	12:15	12:20	—	12:25	12:30	12:25	12:30
—	—	⑦便	12:30	12:35	—	12:40	12:45	12:40	12:45
—	—	⑧便	—	—	16:20	—	16:25	16:20	16:25
—	—	⑨便	—	—	17:55	—	18:00	17:55	18:00



※①便は車で短大生の乗車がなければ、市立病院へ直行します。
(短大から市立病院間は乗車できません)
※⑧⑨便のみ30分前に予約が必要です。(アップルキャブ TEL.0265-28-2828)
※電車が遅れた場合は、電車の到着を待って運行しますので、ご了承ください。
※電車の時間は駅発の時間です。
※飯田市以外の方もご利用いただけます。

問い合わせ アップルキャブ(運行事業者) TEL.0265-28-2828
飯田市リニア推進課交通政策係 TEL.0265-22-4511

飯田市役所ホームページ 公共交通総合案内 🔍 検索



